

安全データシート (SDS)
BARDAHL Engine Stop Leak

作成日: 2011/03/01

改訂日: 2016/08/02

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称: 石油系炭化水素留分の水素化に依り得られるニュートラル潤滑油と潤滑油添加剤の混合物
 製品コード: 8015-2pk
 会社名: バーダールエーアンドエル株式会社(輸入総発売元)
 住所: 山梨県上野原市上野原 8154-46
 電話番号: 0554-62-6015
 FAX 番号: 0554-62-6017
 メールアドレス: info@bardahl.co.jp (作成者:北村健一 携帯 090-3525-0709)
 推奨用途及び使用上の制限: 自動車用エンジンオイル添加剤
 内燃機関クランクケース内部潤滑油添加剤
 4 サイクルガソリンエンジン及びディーゼルエンジン専用
 自動車・大型トラック・トレーラー・建設機械・船舶等に搭載される 4 サイクルガソリンエンジン及びディーゼルエンジンオイル添加剤。各種モーターオイルに次の成分を強化する。
 摩擦緩和剤・摩耗防止剤・清浄分散剤・シール復元剤。
 (2 サイクルエンジンには使用できません。)

2. 危険有害性の要約

分類実施日

H21.3.27、政府向け GHS 分類ガイダンス(H20.9.5 版)を使用

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類できない
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分外
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類できない
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類できない
酸化性液体	分類できない
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類できない
金属腐食性物質	分類できない

人健康有害性

急性毒性(経口)	区分 4
急性毒性(経皮)	区分 2
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	区分 2
急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	区分 4
皮膚腐食性・刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2A
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分外
生殖細胞変異原性	区分 2
発がん性	区分外(高度精製油)
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性	区分 2(肺) 区分 1(中枢神経系、血液、 肝臓、肺臓)
(単回ばく露)	区分 3(気道刺激性)
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分 1(肺、皮膚)

濃度又は濃度範囲: データなし

4. 応急措置

吸入した場合:	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 医師の手当、診断を受けること。
皮膚に付着した場合:	気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。 皮膚を速やかに洗浄すること。 水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 医師の手当、診断を受けること。
目に入った場合:	気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 目の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。 医師の手当て、診断を受けること。
飲み込んだ場合:	気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。 口をすすぐこと。 吐かせないこと。 医師の手当、診断を受けること。
最も重要な兆候及び症状:	気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

5. 火災時の措置

消火剤:	粉末消火剤、一般の泡消火剤、二酸化炭素、砂、噴霧水
使ってはならない消火剤:	棒状注水
特有の危険有害性:	加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。
消火を行う者の保護:	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 風上に留まる。 低地から離れる。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項:	河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 環境中に放出してはならない。
回収、中和:	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。
封じ込め及び浄化の方法・機材:	危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
二次災害の防止策:	すべての発火源を速やかに取除く (近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 容器内に水を入れてはいけない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
 局所排気・全体換気: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項: 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源 から遠ざけること。—禁煙。
 使用前に使用説明書入手すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
 火気注意。
 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
 接触、吸入又は飲み込まないこと。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 「10. 安定性及び反応性」を参照。

保管

技術的対策: 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。
 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。
 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。
 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気設備を設ける。
 混触危険物質: 「10. 安定性及び反応性」を参照。
 保管条件: 酸化剤から離して保管する。
 施錠して保管すること。
 容器包装材料: 包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度: 設定されていない。

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):

日本産業衛生学会(2007年版) 設定されていないため該当せず。
 ACGIH(2006年版) TLV-TWA 5 mg/m³ (鉱油ミストとして)
 TLV-STEL 10 mg/m³ (鉱油ミストとして)

設備対策: この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
 取扱いについては全体換気装置を設置した場所で行う。
 空気中の濃度を制御するには、一般適正換気で十分である。
 高熱工程でミスト、ガスが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具: 適切な呼吸器保護具を着用すること。
 手の保護具: 必要に応じて適切な保護手袋を使用すること。
 眼の保護具: 適切な眼の保護具を着用すること。
 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
 皮膚及び身体の保護具: 必要に応じて適切な保護衣、保護面を使用すること。

衛生対策: 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など: 有色の液体、透明度のある赤色で粘性の液体
 臭い: 鉱油系の臭いがある。
 pH: データなし
 融点・凝固点: データなし
 沸点、初留点及び沸騰範囲: 沸騰点 >135℃ 初留点 >150℃以上
 引火点: 85℃
 爆発範囲: 上限 6.1% 下限 1.0%
 蒸気圧: データなし
 蒸気密度(空気 = 1): データなし

比重(密度):	0.876 (15°C)
溶解度:	水に対して不溶
オクタノール/水分配係数:	データなし
自然発火温度:	データなし
分解温度:	データなし
臭いのしきい(閾)値:	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル = 1):	データなし
燃焼性(固体、ガス):	該当しない
粘度:	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性:	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性:	強酸化剤と反応する。
避けるべき条件:	情報なし
混触危険物質:	強酸化剤
危険有害な分解生成物:	一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性:	経口:ラット LD50 > 5000mg/kg 3) に基づき区分外とした。 経皮:ラット LD50 > 5000mg/kg 3) に基づき区分外とした。 吸入(蒸気):データなし 吸入(ミスト):ラット LD50 = 2.18 mg/L 3) に基づき区分 4 とした。 吸入すると有害(ミスト)
皮膚腐食性・刺激性:	ウサギを用いた試験において軽度の刺激性を認めている複数の報告 3) に基づき区分 3 とした。軽度の皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷・刺激性:	ウサギを用いた試験により、軽度の刺激性と記述されている報告 3) があるので区分 2B とした。眼刺激
呼吸器感作性又は皮膚感作性:	呼吸器感作性:データなし 皮膚感作性:モルモットを用いた OECD Guideline 406 に準拠した複数の試験 (maximization test を含む)において、いずれも感作性なしとの結果が得られている 3) ので区分外とした。
生殖細胞変異原性:	ラットを用いた細胞遺伝学的試験[染色体異常試験](体細胞 in vivo 変異原性試験)における異常細胞の増加 3) に加え、職業ばく露を受けたヒトの末梢血リンパ球で染色体異常の頻度増加が観察された 4) こと及び生殖細胞 in vivo 遺伝毒性試験の情報がないことに基づき区分 2 とした。 異常細胞の増加 3) に加え、職業ばく露を受けたヒトの末梢血リンパ球で染色体異常の頻度増加が観察された 4) こと、及び生殖細胞 in vivo 遺伝毒性試験の情報がないことに基づき区分 2 とした。
発がん性:	遺伝性疾患の恐れのない IARC では、未精製又は軽度処理油 I はグループ 1、高度精製油はグループ 3 に分類 5) され、ACGIH でもほぼ同様の分類がなされている 6) 。産衛学会 7) では未精製及び半精製品として第 1 群に分類されている。本シートでは、高度精製油として、IARC の分類に従い、区分外、未精製油又は低度処理油は区分 1A とした。 発がんのおそれ(区分 1A)
生殖毒性:	データなし
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露):	ラットに吸入ばく露した試験により、肺に肉眼的、病理組織学的な急性変化(詳細不明)が用量依存的(1.51~5.05 mg/L)に見られたとの記述 3) に基づき区分 2(肺)とした。肺の障害のおそれ
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露):	長年にわたり鉱油、あるいはそのミストのばく露を受けたヒトで肺線維症、脂肪肺炎、肺の脂肪肉芽腫が報告され 8) 、9) 、10) 、また、疫学調査において切削油への職業ばく露により重度の毛嚢炎の発生が報告されている 9) ことに基づき区分 1(肺、皮膚)とした。長期又は反復曝露による肺、皮膚の障害 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ
吸引性呼吸器有害性:	データなし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性:	データ不足のため分類できない
------------	----------------

水生環境慢性有害性:

データ不足のため分類できない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物:

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装:

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

非危険物

航空規制情報

非危険物

国内規制

陸上規制情報

非該当

海上規制情報

非危険物

航空規制情報

非危険物

特別の安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
 重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号

15. 適用法令

化審法: 分類

既存

官報公示整理番号

2-2424

既存名簿 官報公示名称

アルキレン(C=2~8)グリコールモノアルキル(C=2~8)エーテル

労働安全衛生法:

名称等を通知すべき有害物
 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)
 エチレングリコールモノノルマルブチルエーテル(別名ブチルセロソルブ)
 第四類第三石油類 危険物等級Ⅲ

消防法

第四類第三石油類 危険物等級Ⅲ

16. その他の情報

参考文献

- 1) ICSC (2001)
- 2) NFPA (13th, 2002)
- 3) IUCLID (2000)
- 4) IARC suppl.7 (1987)
- 5) IARC (1987)
- 6) ACGIH (2006)
- 7) 産衛学会 (1977)
- 8) ACGIH (2001)
- 9) IARC 33 (1984)
- 10) EHC 20 (1982)

災害事例

情報なし

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。ここに記載された情報は、当社の最善な知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。